

NPO 法人こどもとむしの会 平成 24 年度事業報告書

A 子どもと虫に関連する普及啓発事業

A-1 いどうこんちゅうかん(吉岡)

「いどうこんちゅうかん」とは、子どもたちのもとへ「ほんものたいけん」を届けるマジックボックスです。教科書や映像から得た知識ではなく、ほんもののいきものを自分の手で見て触るという五感を使った体験を通して、好奇心旺盛な子どもたちに驚きと感動と発見を届けます。

平成 24 年度は 12 ヶ所で開催しました。そのうち神戸市立桃山台児童館は 22 年度から、神戸市児童館派遣事業はの 23 年度からの継続です。そのほかは、新たな開催です。

日時	会場	来場者数	スタッフ氏名	備考
6月9日	仙台市科学館	840人/3500人 (体験者/フェスティバル来場者)	一井・森野・前田慧・前田慈・吉岡	「こども☆ひかりフェスティバル」に参加。東北被災地支援。初めての遠距離移動をしておこなった。ブース前に行列ができる盛況で、仙台の子どもたちにも楽しんでもらった。
6月10日	こむこむ館(福島市)	600人/2943人 (体験者/フェスティバル来場者)	一井・森野・前田慧・前田慈・吉岡	「こども☆ひかりフェスティバル」に参加。放射線というデリケートな問題があるので、福島では神戸・奈良・仙台で採集した虫を使用。虫と遊ぶ福島の子どもの笑顔がうれしかった。被災地で開催する意義を感じる。
7月31日	西はりま天文台公園 (FT コーポレーション)	8人	八木・中瀬	小学生対象・天文台での「星の観察ツアー」の昼の部を担当。公園内でカブト・クワガタなどを採集。子どもたちは捕った虫を大事そうに抱えて眠ったようだ。
8月3日 ～5日	国崎クリーンセンター 啓発施設 「ゆめほたる」	264人	岡本・金子・片岡・芳川・満手・八木	「くにさき・夏の昆虫館スペシャルデー」として、家族連れを対象とした園内にての昆虫採集体験。8月4日は夜間のプログラムを実施した。
8月9日	神戸市立地域人材センター (旧ふたば小学校/長田区)	約100人	西本・中瀬・森野・前田慧・船元・吉岡	夏休み子供向けプログラムのひとつを担当。地域の小学生親子・幼稚園・保育園児が参加。最初に西本先生が虫のお話をしてください。
8月10日 (タペストリー 展示は7/31～ 8/10)	しあわせの村 (温泉健康センター玄関ホール)	約250人	近藤・中瀬・森野・前田慧・前畑・船元・吉岡	公共施設での不特定多数の開催は初めて。準備段階から人だかりができる。プールや温泉に孫を連れてきたおじいさん・おばあさんが想像していた以上に楽しんでおられた。
8月21日	宝塚市立西山幼稚園	約50人	八木・中瀬・前田慈	ミヤマアカネを題材とした地域のお祭り「あかねちゃん学園」のプログラムの一つとして実施した。
8月22日	神戸市立桃山台児童館 (垂水区)	80人 (小学生64人・幼児4人・ 大人12人)	内藤・中瀬・森野・前田慧・前田慈・小林・吉岡	直接依頼による3年目の開催。恒例の内藤先生のお話では子どもたちが積極的に質問する。3年目の子もいるので初年度ほどの興奮はないが、フルに楽しもうという意欲はすごい。
8月23日 (午前)	神戸市立落合児童館 (須磨区)	118人 (小学生76人・幼児15人・ 大人21人)	岡本・中瀬・森野・前田慧・小林・吉岡	児童館派遣事業による2日間の開催。抽選で当たった4館に行く。学生スタッフの「むしむし小話」も初めての試み。クイズ形式にすると、かなり盛り上がる。学生スタッフをとてもほめてください。
8月23日 (午後)	神戸市立美賀多児童館 (西区)	86人 (小学生65人・幼児9人・ 大人12人)	岡本・中瀬・森野・前田慧・小林・吉岡	児童館派遣事業。どこの児童館スタッフが協力的なのうれしい。どの館も事前に送ったぬりえがきれいに展示されている。岡本さんのセミのお話も楽しんでた。
8月24日 (午前)	神戸市立竹の台児童館 (西区)	113人 (小学生61人・幼児38人・ 大人14人)	八木・中瀬・森野・前田慈・吉岡	児童館派遣事業。準備中に子どもたちは先生と一緒に近所の公園へ虫捕りに。捕った虫を自分でカヤに放して大喜び。事前のぬりえと当日の標本見てのぬりえとのレベル差に驚く。
8月24日 (午後)	神戸市立千代が丘コーナー (垂水区)	29人 (小学生25人・大人4人)	八木・中瀬・森野・前田慈・吉岡	児童館派遣事業。小規模でこどもの出入りがなかったのでゆつたりと楽しんでもらった。「むしむし小話」も時間たっぷりできた。

「いどうこんちゅうかん」事業実施の様子



A-2 氷河時代の生き残り、エゾゼミを観察しよう(八木)

日 時：8月11日(土)13:00～16:00

会 場：兵庫県立六甲山自然保護センター

参加者：41名

講 師：宮武頼夫、スタッフ：岡本俊治、金子留美子、片岡義方、齋藤泰彦、八木 剛、前田 慈、森野光太郎

備 考：「エゾゼミ」を現地で観察することにより、六甲山の生物多様性を普及啓発し、児童の環境学習に資することを目的として実施(兵庫県神戸県民局環境課からの委託形式)。室内講義と野外での「ぬけがらさがしペナントレース」、セミ類の観察。

B 地域の自然環境とまちづくりに関連する調査研究事業

B-1 神戸市北区のチョウ類調査 (吉田 / 近藤)

新名神高速道路計画路線が神戸市北区委場町を通過するにあたり、工事施工前・工事中・工事完了後にかけてギフチョウの生息状況及びチョウ類相の調査を行い、同工事による環境の改変が及ぼす影響を評価するとともに、必要であれば保全対策等についての提案を行う。調査は平成 22 年 4 月から開始され、平成 24 年度は 3 年目で、工事実施中の調査であった。

調査内容は、ギフチョウについては、4 月に成虫の生息状況調査を計画路線周辺において、5 月に卵・幼虫調査を食草であるカンアオイ群落において、それぞれ 3～4 日程度実施した。またチョウ類群集調査のため、4～9 月にかけて 5 回モニタリング調査 (ルートセンサス法・定点観察法) を実施した。

平成 24 年度は、ギフチョウの成虫調査では 9 個体を確認、卵・幼虫調査ではカンアオイ群落 10 地点のうち 2 群落において合わせて 31 卵と幼虫 34 個体を確認し、工事による改変区域外でもある程度の個体群が維持されていることが確認された (工事による改変対象区域内は、別途調査が行われているが、本会の調査対象外である)。

モニタリング調査では 35 種 262 個体を確認した。このうちルートセンサス法で 27 種 138 個体を確認した。重要種としては、ギフチョウに加え、計画路線から少し離れた露岩地に生息するクロツバメシジミを確認した。また、定点調査では 26 種 124 個体を確認した。7 月調査時には工事の影響により定点調査地点付近が改変されたが、以降は周辺のチョウ類の個体数が減少したことを確認した。今後も調査を継続し、工事中～完了後の変化を考察するためのデータとする予定である。

調査月日	調査内容	調査方法	スタッフ数
4月16日 4月18日 4月19日	ギフチョウ 成虫確認調査	任意観察法 マーキング法	19人
5月12日 5月14日 5月22日 5月24日	ギフチョウ 卵・幼虫確認調査	現地踏査	16人
4月24日 5月22日 6月14日 7月23日 9月19日	チョウ類群集のモニタリング調査	ルートセンサス法	20人



写真1 ギフチョウ成虫調査状況（平成24年4月18日撮影）

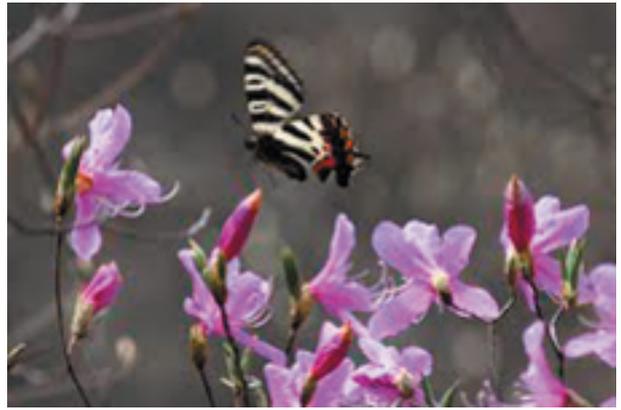


写真2 ギフチョウ成虫（平成24年4月19日撮影）



写真3 ギフチョウ卵・幼虫調査状況（平成25年5月12日撮影）



写真4 ギフチョウ幼虫（平成24年5月14日撮影）

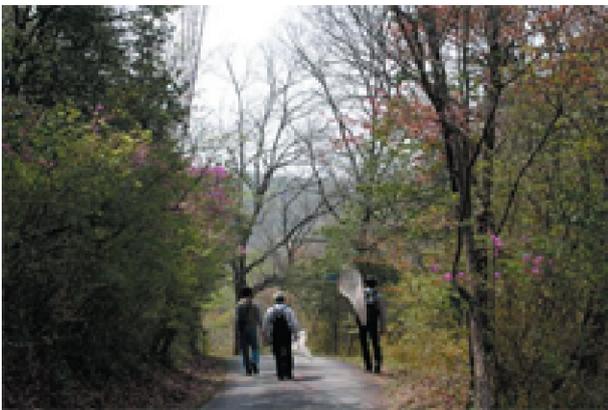


写真5 ルートセンサス調査状況（平成24年4月24日撮影）



写真6 ギフチョウ成虫（平成24年4月24日撮影）

B-2 きべりはむしの編集発行(中峰)

事業の概要

1972年創刊の雑誌『きべりはむし』は、老若男女を問わず、昆虫に関心のある読者を対象とし、兵庫県ならびに地域の昆虫相、昆虫の採集・観察・飼育の記録や方法、昆虫学の解説、昆虫を題材とした教育や地域づくりに関する記録や方法などの、未発表の報文を掲載している。

『きべりはむし』は、兵庫昆虫同好会の機関誌ではなく、独立した雑誌とし、「きべりはむし編集委員会」が編集し、「兵庫昆虫同好会」と「NPO 法人こどもとむしの会」が共同で発行する。巻号は、兵庫昆虫同好会発行の『きべりはむし』の継続としている。

平成24年度に発行した『きべりはむし』の概要

きべりはむし 第35巻 第1号

- ・2012年12月25日発行
- ・頁数45、報文7、短報7

きべりはむし 第35巻 第2号

- ・2013年3月25日発行
- ・頁数38、報文6、短報1、書評2

B-3 みんなでつくる初蝶リレー(久保)

(1) 事業の概要

初蝶リレー 2013 は、その春に初めて見られた蝶に関する情報を、こどもとむしの会会員から募り、それを会員間で共有しようとする試みである。

早春の蝶の出現期は、これまで「虫屋」個々の観察記録としては存在したが、多くの人が共有する状況にはなかった。これを会員間で共有することによって、冬から春にかけての気温変化と蝶の出現期の関係を、多くの人が体感することができる。また、兵庫県下を中心に近畿地方に在住する会員が観察の網を広げることで、広汎な情報が得られ、桜前線のように、蝶の発生時期が描く「出現前線」を描くことが可能となる。さらに、こうした事業を毎年実施することにより、早春の蝶の出現期がどのように変動するのかという長期的な情報も得られる。

(2) 実施方法

「初蝶リレー 2013」は 2 月 4 日(立春)から 4 月 14 日までの期間に、会員個々が、目撃した蝶の種類、日時、場所を E メールによって担当者(久保)宛てに連絡するという方法で実施した。担当者は寄せられた情報をとりまとめて、週に 1 回程度「初蝶ニュース」としてメール配信することとした。

(3) 成果(別紙一覧表参照)

期間中、28 人の会員から、21 種の蝶に関して累計 94 件の情報が寄せられたほか、蛾、トンボ、バッタ類に関する情報も 9 件寄せられた。これによって「号外」などを含め、合計 12 回にわたって「初蝶ニュース」を配信できたほか、会員から情報とともに寄せられた写真を、こどもとむしの会ブログ上に公開できた。

(4) 問題点と今後の展望

担当者が予想したよりも多くの情報が寄せられ、初めての試みとしては、一定の成果があった。しかし、事前に予想していたような「蝶前線」を描くためには、さらに多くの情報を積み重ねる必要があることも明らかになった。

情報収集方法については、現在のところ E メールが最も効果的であることは疑いないが、今後の実施にあたっては、メール環境にない会員諸氏が参加する途を、何らかの方法で確保する必要がある。

本事業は、佐用町昆虫館開館前の、昆虫出現に対する期待感が高まる時期に行えることから、参加した会員にとっては、一定の「やりがい」を感じられる事業にもなると思われる。それによって、こどもとむしの会ならびに佐用町昆虫館の運営に対し、多少ともプラス効果を生むことができるかもしれない。可能であれば、会員外の方々(特にこども)に広く呼びかけることで、その効果はより高まるだろう。佐用町内の小学校等への参加呼びかけなども考慮してよいかもしれない。

なお今回の成果は、「きべりはむし」誌上に発表する予定である。

表 初チョウリレー 2013 結果

種名	確認者	確認日	確認場所	確認数
ギフチョウ	小林慧人	3月31日	宝塚市武田尾	
キアゲハ	宮武頼夫	4月5日	奈良県橿原市	3
アゲハチョウ	大西蘭子	3月7日	大阪市北区梅田	
	清水哲哉	3月19日	たつの市新宮町	
	小林慧人	3月23日	京都府京田辺市	2
	首藤広樹	3月23日	太子町	
アオスジアゲハ	宮武頼夫	4月5日	奈良県橿原市	1
キチョウ	近藤フミ子	3月23日	芦屋市	
	松下宗嗣	3月6日	大阪府八尾市	
	小林慧人	3月7日	池田市畑	2
	小林慧人	3月8日	池田市細川	
	宮武頼夫	3月9日	奈良県橿原市	
	太田慶子	3月10日	千葉県昭和の森	
	近藤フミ子	3月15日	姫路市夢前町置本	
	小林慧人	3月16日	池田市畑	
	小林慧人	3月19日	京都府京田辺市	多数
	宮武頼夫	3月19日	奈良県橿原市	多数
モンキチョウ	内藤親彦	3月7日	姫路市網干区損保川河川敷	
	清水哲哉	3月8日	たつの市誉田町	
	小林慧人	3月19日	京都府京田辺市	10
	宮武頼夫	3月19日	奈良県橿原市	1♀
	久保弘幸	3月6日	播磨町大中	
ツマキチョウ	宮武頼夫	4月5日	奈良県橿原市	3
モンシロチョウ	鐵 英記	2月14日	姫路市勝原区	1
	河村幸子	3月6日	千葉県柏市酒井根	1
	野村智範	3月6日	佐用町早瀬	1
	茂見節子	3月6日	たつの市御津町朝臣	
	内藤親彦	3月7日	姫路市網干区損保川河川敷	
	前田啓治	3月7日	たつの市龍野町堂本	1
	清水哲哉	3月9日	たつの市誉田町	
	太田慶子	3月10日	千葉県昭和の森	
	宮武頼夫	3月12日	奈良県橿原市	
	清水哲哉	3月12日	佐用町土井	
	飯島昌	3月16日	猪名川町広根	
	飯島昌	3月16日	猪名川町榎並	
	齋藤泰彦	3月17日	佐用町漆野	
	八田康弘	3月17日	佐用町船越	1
	三木進	3月19日	明石市大久保町八木	1
	小林慧人	3月19日	京都府京田辺市	多数
	宮武頼夫	3月19日	奈良県橿原市	多数
	三木進	3月22日	稲美町	多数
	三木進	3月22日	明石市金ヶ崎	2
	清水兼男	4月5日	宍粟市千種町河呂	1
清水兼男	4月5日	宍粟市千種町千種・岩野辺	5~6	
ウラギンシジミ	小林慧人	2月14日	川西市多田	
ムラサキシジミ	小林慧人	3月19日	京都府京田辺市	
	宮武頼夫	3月19日	奈良県橿原市	
	宮武頼夫	3月9日	奈良県橿原市	
ベニシジミ	清水兼男	3月9日	宍粟市千種町	
	内田隼人	3月9日	芦屋市中央公園	
	久保弘幸	3月12日	播磨町大中	
	清水哲哉	3月16日	たつの市新宮町	
	近藤伸一	3月20日	朝来市	
	宮武頼夫	4月4日	奈良県橿原市	1
	久保弘幸	4月4日	播磨町大中	
	久保弘幸	2月1日	播磨町大中	幼虫
ヤマトシジミ	清水典子	4月18日	神戸市垂水区	2
ツバメシジミ	久保弘幸	4月4日	播磨町大中	1
	清水哲哉	3月28日	佐用町	1♂ 1♀
	久保弘幸	4月4日	播磨町大中	
スギタニルリシジミ	近藤伸一	4月5日	養父市大屋町横行	
ルリシジミ	松岡想	3月13日	明石市大久保町	2♂
	飯島昌	3月16日	宝塚市花屋敷	
	清水哲哉	3月16日	たつの市新宮町	
	小林慧人	3月16日	池田市畑	
	清水典子	3月16日	神戸市垂水区	
	小林慧人	3月19日	京都府京田辺市	
	近藤伸一	3月20日	朝来市	
	宮武頼夫	4月5日	奈良県橿原市	1
久保弘幸	4月4日	播磨町大中		

種名	確認者	確認日	確認場所	確認数
アサギマダラ幼虫	近藤伸一		多可町加美区寺内	
テングチョウ	大塚剛二	3月6日	篠山市藤阪	
	近藤伸一	3月6日	朝来市	
	太田慶子	3月10日	千葉県昭和の森	
	小林慧人	3月16日	池田市畑	
	宮武頼夫	3月19日	奈良県橿原市	
キタテハ	近藤伸一	3月6日	朝来市	
	久保弘幸	3月6日	播磨町大中	
	小林慧人	3月8日	池田市伏尾	
	小林慧人	3月8日	川西市猪名川河川敷	
	宮武頼夫	3月9日	奈良県橿原市	
	小林慧人	3月5日	京都府京田辺市	
	小林慧人	3月19日	京都府京田辺市	
	宮武頼夫	3月19日	奈良県橿原市	多数
アカタテハ	清水哲哉	2月28日	たつの市内	
	宮武頼夫	3月9日	奈良県橿原市	
	小林慧人	3月5日	京都府京田辺市	
ルリタテハ	梅田悠起	3月31日	川西市国崎	
	宮武頼夫	3月9日	奈良県橿原市	
	小林慧人	3月5日	京都府京田辺市	
ミヤマセセリ	梅田悠起	3月31日	川西市国崎	
	近藤伸一	4月5日	養父市大屋町加保	

トビモンオオエダシヤク	久保弘幸	3月4日	明石市大久保町	1
オオシモフリスズメ	久保弘幸	4月5日	姫路市	
イボタガ	久保弘幸	4月5日	加古川市志方町	
エソヨツメ	久保弘幸	4月5日	加古川市志方町	
マイコトラガ	久保弘幸	4月5日	加古川市志方町	
オオミズアオ	金子留美子	4月19日	大阪府四条畷市室池	

アオモンイトトンボ	片岡義方	3月12日	大阪府豊中市	
シオカラトンボ	片岡義方	3月16日	大阪府豊中市	

クビキリギス	首藤広樹	3月23日	太子町	
--------	------	-------	-----	--

C 昆虫館等の運営支援事業

C-1 佐用町昆虫館の管理運営(三木)

「こどもとむしの秘密基地」を合言葉に、昆虫館と周辺の昆虫、植物をはじめあらゆる自然環境に触れ、実体験を通し、命の大切さに気付いてもらうよう、さまざまな機会を提供した。

管理面では、理事5人を昆虫館担当とし、うち一人が統括責任者として全体を把握。理事会に諮りながら課題解決に当たり、一年を通して昆虫館の維持管理、植栽の拡充等、環境整備を進めた。また、地域と連携し、行政との連絡調整を図った。

4月から10月の土日祝の通常開館期間は、一日館長が責任を持って、こどもの安全に尽力するとともに、さまざまな学びの場を提供した。団体の要請による平日の臨時開館も行い、さらに、入館者が多いお盆の期間が去年は平日だったため、8月13日～17日の5日間、臨時開館し、750人の来館者でにぎわった。昨年度は、正会員ら述べ337人が運営に参加し、通常、臨時合わせて79日間開館、入館時に名前記載した人は、4,857人となった。

運営面では、正会員が交代で一日館長を務め、別記の「昆虫道場」をはじめ、「むしのお絵かき教室」「昆虫写真教室」「姫虫の夕べ」「むしの写真教室」「電子顕微鏡体験」「昆虫面白クイズ」など、当日の館長が得意とするイベントを用意し、特色を出した。

佐用町の依頼で、「ひまわり祭り」に初参加、3000人近い人々に身近な生き物に触れてもらった。福島県からの一次避難のこども達30人と地元三河小学校との交流を、自治会、佐用町、学校と共に実施。川の生き物に親しむプログラムも人気だった。

C-2 第3期 佐用町昆虫館こども昆虫道場(金子)

こども昆虫道場は「ほんものたいけん」をスローガンに、生きたムシを採集し観察する講座です。

平成24年度で第3期目になります。5月～10月の月1回(8月はお休み)、5回セットの講座を開催しました。参加費は¥1,500です。参加者の反応は、良好でした。

トム・ソーヤスクール企画コンテスト(日清食品の助成事業)に応募し、採択されて10万円の助成を受けました。

実施月日	会場	来場者数	スタッフ数
5月20日	佐用町昆虫館	34人	7人
6月10日	佐用町昆虫館	32人	6人
7月7日	佐用町昆虫館	35人	5人
9月9日	佐用町昆虫館	21人	5人
10月14日	佐用町昆虫館	32人	5人